



成田 あれ・これ



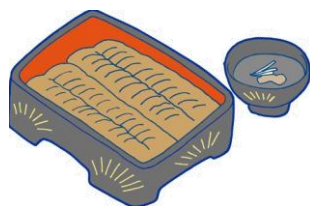
令和4年8月号 第326号

発行：(一社)成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

新型コロナウイルスの影響によりイベントの変更や中止が生じる場合があります。
最新情報をご確認の上お出かけください。ご理解の程どうぞよろしくお願いたします。
尚、イベントの情報は令和4年6月17日現在です。

成田うなぎ祭り 7/15(金)~8/28(日)

江戸時代から続く「成田のうなぎ」を多くの皆様にとって頂く為に、今年も「成田うなぎ祭り」を開催します。



今年で18回目を迎え、約100店の参加店が、アイデア溢れるうなぎ料理や成田の特産物などの多彩な品々を沢山ご用意してお客様をお待ちしております。

イベント期間中は、各参加店でのお食事やお買い物1,000円につき1個スタンプを押印します。2店舗以上を巡りスタンプを3個集めると、豪華賞品が当たる抽選会にご応募できます。

古い由来のある成田のうなぎ。江戸時代には「成田詣」が盛んになり成田は繁栄しました。門前町の旅館では、江戸でうなぎの人気の高まるにつれて夏場のうなぎ料理を売り物として、お客様をおもてなしました。この名残で、成田山周辺を中心に成田市内には、うなぎ料理を出すお店が今でも数多くあるのです。

距離800m、徒歩約15分の成田山表参道には古くからの旅館や料理店が連なり、数多くの飲食店がうなぎ料理をメニューに入れています。これだけの密度でうなぎ屋さんが集まっている例は全国でも珍しいと言えます。

この機会に是非、成田の食や文化に触れることができる、うなぎのぼりの街 成田にお越し下さい。

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



成田山みたま祭り 盆踊り大会 8/23(火) 24(水)

長い歴史のある成田山みたま祭り盆踊り大会は、市民全体の祭りとして、女人講をはじめ市内の多くのご婦人が参加し、浴衣を着た小さな子供達も踊りの輪に加わり、成田ゆかりの曲に合わせて踊ります。

見物の方も一緒に、夏の夜を楽しむことができます。

皆で踊るととても楽しいです。飛び入りでのご参加も大歓迎ですので是非お越し下さい。皆で楽しい夏の思い出づくりをしてみませんか？

【日付】8月23日(火)・24日(水)

※両日雨天の場合は25日(木)に順延。25日(木)雨天時は中止となります。

時間については、成田市観光協会までお問合せください。

【開催場所】成田山弘恵会田町駐車場(成田山新勝寺門前)

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102



8月の主な行事予定

滑河観音 四万八千日 (しまん はっせんいち)

「四万八千日」は、観音様の深いご縁がいただける日です。この日にお参りすると、四万八千日お参りしたのと同じ御利益があると言われてます。

新しい仏様と2年目の仏様の精霊棚にお供えする為のお札とホオズキをお求めいただけます。

(お札は8月からお求めいただけます。)

【日 時】 8月9日(火)

【場 所】 滑河観音(龍正院) JR 滑河駅より徒歩15分

【お問合せ先】 滑河観音(龍正院) TEL 0476-96-0217



千葉県立房総のむら「むらの縁日・夕涼み」

8月6日(土)と7日(日)に開催する「むらの縁日・夕涼み」は、開館時間を午後8時まで延長します。「涼む」をテーマに、夏にちなんだ製作体験、和太鼓やお囃子の演奏、大道芸、怪談話などを行い、昔懐かしい縁日と夕涼みの雰囲気再現します。房総のむらならではの体験とともに、夏の風物詩をぜひお楽しみください。

なお、両日とも浴衣・甚平を着用の方は入場料が無料となります。

【日 時】 8月6日(土)・7日(日) 午前9時～午後8時

(午後4時30分以降の入場料は高校生以上100円となります。)

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

いざ！成田詣へ～街道旅日記～その②

出開帳による江戸進出の成功により、成田山を信仰する組織である成田講(講社)が、各地で結成されることになりました。今月は成田講についてふれてみましょう。

文化2年(1805年)の講中記(講社名簿)によりますと、この段階での講社は414講あり、そのうち江戸市中が322講となっています。以後増え続け、弘化年間(1844年～1848年)までには、関東一円に80講が増え、さらに安政年間(1854年～1860年)までには100講が生まれ、伊豆・遠江・信濃国と地域も広まってきました。

江戸の成田講は、町単位だけでなく、商人や職人集団単位でも組織されていました。商人としては、魚屋や酒屋のほか、両替屋・札差・米屋・材木屋など、日本橋や深川地域の富裕な商人がメンバーの講中もあります。江戸のさまざまなネットワークが、成田山を支えていたことが分かります。

このように講社などの参詣人の増加に伴い、成田村では旅籠屋や飯屋などが整いはじめ、村から町へと変容していきました。



現在でも多くの講社のご信徒さんが参詣に訪れる成田山。総門を入り正面の石段にそびえる仁王門。中央の「魚がし」の文字が大きく目立つ大提灯は、昭和43年に東京・築地の魚河岸講の奉納によるものです。魚河岸が仁王門に大提灯を奉納するのは古くからの伝統で、安政6年(1859年)に二代目広重が描いた「下総成田山境内図」にも、「魚河岸」と書かれた大提灯が描かれており、江戸の多くの人々による成田山信仰があったことを表しています。ご参詣時に仁王門をくぐる際は、ぜひ江戸当時のにぎやかな情景を思い浮かべながら大提灯をご覧になられてはいかがでしょうか。【次回へ続く⇒】

☆イベント等の関連情報については、FEEL成田(<https://www.nrtk.jp>)をご覧ください。☆